MSDSH154005－00－00
作成　2009年04月07日

製品安全データシート

１．製品及び会社情報

製品名　：ホットメルトシート
　　Ｈ１５４００５－００
用途　　：製本機用 糊材
会社名　：ノーリツ鋼機株式会社
住所　　：和歌山県和歌山市梅原579-1
担当部門：品質保証部
連絡先　：電話番号（073-454-0309）　ＦＡＸ番号（073-454-4618）
　　E-mail（msds@nkc.noritsu.co.jp）

２．組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物
化学名　　：エチレン・酢酸ビニル樹脂系ホットメルト系接着剤
成分及び含有量

化学名	CAS No.	重量比 %	備考
固形パラフィン	8002-74-2 63231-60-7	15 – 25 %	①
酸化チタン(IV)	13463-67-7	0.5 – 4 %	①

①：労働安全衛生法の通知対象物に該当します。

政令番号　　：固形パラフィン（170）、酸化チタン（191）
官報公示整理番号：固形パラフィン（8-414、8-430）、酸化チタン（1-558）
危険有害性不純物：含有しない

３．危険有害性の要約

最重要危険有害性：　通常は常温では固体であり危険有害性はないが、加熱して使用するとき、加熱した製品が身体の一部に接触すると重度の火傷を起こす。
有害性　　：　加熱時に生じる蒸気は、目、鼻、のど、呼吸器、粘膜、などを刺激する。加熱時に生じる蒸気は、不快感、頭痛、流涙などの症状を起こす事がある。
燃焼、または過度に加熱すると燃焼、分解などにより一酸化炭素、二酸化炭素、その他の有害なガスが発生する可能性がある。（一般的なホットメルト接着剤の原料の熱分解温度は、２５０℃以上）
環境影響　　：　情報なし。しかし、通常の状態では分解しにくいと考えられ、環境に放置・投棄した場合に環境汚染の原因となることが推測される。
物理的及び化学的危険性：　可燃性があるので過度の加熱、火気に注意する。
包装容器から取る際に静電気が発生する場合がある。（人によってしびれます）
特定の危険有害性：　通常の使用では粉塵の状態になることはないと考えられるが、粉塵の場合粉塵爆発の可能性がある。
主要な徴候　　：　情報なし
分類の名称（分類基準は日本方式）：　指定可燃物「消防法　第９条の３　危険物の規制に関する政令第１条の１２「指定可燃物」合成樹脂類（その他のもの）（３０００ｋｇ以上の場合）」

４．応急措置

目に入った場合　：固体の製品が目に入った場合最低１５分間、清浄な水で目の洗浄を行い、ただちに医師の診断、手当てをうける。
溶融した製品が目に入った場合は、ただちに大量の水で十分に冷却し、医師の診断、手当てを受け火傷に対する医療処置を行なう。（目をこすったり無理に開けさせてはならない）
コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり取り除いて洗浄し医師の手当てをうける。

皮膚に付着した場合：火傷のない程度の付着の場合、付着した部分を水でよく洗い流し、さらに石鹸を使用して洗浄する。
加熱した製品に触れた場合、ただちに大量の水で十分に冷却し、医師の診断、手当をうけ火傷に対する医療処置を行う。（製品、衣類などが皮膚にはりついている場合無理にはがしてはならない。水ぶくれをつぶしたり、皮膚をはがしてはならない）
被災者には付き添いをおき、一人にしてはならない。

吸入した場合　：加熱した製品の蒸気を吸入して、目、鼻、のど、などに異常が発生した場合は被災者をただちに空気の新鮮な場所に移動させ保温、安静につとめ医師の診断、手当てをうける。
呼吸が止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。
呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
被災者には付き添いをおき、一人にしてはならない。
被災者に意識の無い場合は、口から何も与えてはならない。

飲み込んだ場合　：可能なら指をのどに差し込むか、大量の水、または牛乳を飲ませて吐かせたあと、ただちに医師の診断、手当てをうける。
呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
被災者には付き添いをおき、一人にしてはならない。
被災者に意識の無い場合は、口から何も与えてはならない。

最も重要な微候及び症状に関する情報：
加熱時に生じる蒸気は、目、鼻、のど、呼吸器、粘膜などを刺激する。
加熱時に生じる蒸気は、不快感、頭痛、流涙などの症状を起こすことがある。
加熱した製品が身体の一部に接触すると重度の火傷を起こす。

応急処置をする者の保護：加熱した製品に接触する可能性や蒸気を吸入する可能性がある場合は適切な保護具を着用する。

５．火災時の措置

消火剤　：粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、水（大量の水）

消火方法　：消火作業は、風上から行う。
棒状の水は熱水、または加熱した製品が飛び散り被害の拡大、火傷の可能性があるので十分に注意する。
この場合は泡消火剤を用いて空気を遮断することなどが有効である。
燃焼源の供給を速やかに停止、周囲の設備等に散水して冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止し、関係者以外は安全な場所に退避させる。
消火のための放水などにより、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
周辺火災の場合には移動可能な製品、可燃性の物質を、速やかに安全な場所に移動する。
消火後は周辺、製品内部が冷却されるまでロープをはり、人の立ち入りを禁止する。

消火を行う者の保護：消火作業の際は、必ず適切な保護具を着用し火傷防止の措置を行う。
有害なガスが発生する可能性があるので適切な呼吸保護具（防毒マスク有機ガス用）を着用し、風上から消火活動を行い吸入を避ける。

火災時の危険有害性： 燃焼時には二酸化炭素、一酸化炭素、その他窒素酸化物系ガス、有害ガスが発生する可能性がある。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項：すべる、または足をとられるなどして転ぶ危険性があるため注意する。
加熱した製品が漏出した場合、製品が冷却してから取り除く。
やむを得ず高温の状態で回収する必要がある場合は、適切な保護具を着用して火傷防止の措置をとる。
回収が終わるまで十分な換気を行う。
回収は風上から行う。
漏出した場所の周辺にロープをはるなどして人の立ち入りを禁止する。
多量の場合人を安全な場所に退避させる。
石鹸でよく洗い流して下さい。

環境に対する注意事項：人によっては臭いを不快に感じる可能性があるため周辺の住民に漏出の生じたことを通報するなどの適切な措置を行う。
漏出した物質の外部への飛散、河川、下水、排水溝への流出、土壌への浸透を防止し、また、流出した場合は全量回収につとめる。

除去方法 ： ほうき、掃除機、電気集塵機などで集め、飛散に注意しながら容器など（例　紙袋）に回収する。
溶融した製品が漏出した場合、冷却固化させてからをすくい取る、または掃き集める、削り集めるなどして容器など（例　紙袋）に回収する。

二次災害の防止策 ： 周辺からの着火源となるものをすみやかに取り除き、消火用器材を準備する。
火花を発生しない安全な機器、用具を使用する。

７．取り扱い及び保管上の注意

取扱い ： 専用の溶融機器および塗付機器を使用する。２００℃以上加熱しない。
直接火などで加熱してはならない。

技術的対策 ： 火気注意。
取扱い場所の近くに、緊急時の冷却、手、顔、体などの洗浄、うがいを行うための設備を設置する。また、必要に応じて、静電気発生防止措置を行う。
適切な保護具：保護めがね、手袋は必ず着用する。
溶融した製品の接触防止で必要な場合、長靴、前掛けなどを使用する。
溶融した製品の使用環境及び使用者によって必要な場合、防塵マスク，防毒マスク（有機ガス用）、濃度が高い場合は送気マスク，空気呼吸器、防災面などを着用する。特に溶融状態の製品は身体、着衣などに接触しないようにする。
取扱いは換気のよい場所で行い、作業上の換気を十分に行う。
換気の悪い場所や空気がこもる様な場所での使用は行なわない。また、必要に応じて局所排気装置、全体排気装置、屋内換気設備の設置を行なう。
水分が溶融機器に混入した場合、高温の天ぷら油に水が混入した状態になるので、製品投入時の水分は除去する。

注意事項 ： 漏出、飛散しないようにし、みだりに発煙蒸気を発生させない。
加熱時における発煙蒸気を吸い込まないようにする。
屋外での取扱いは、できるだけ風上から行う。
取扱い後は、手、顔、体、などをよく洗いうがいをする。

安全取扱い注意事項 ： 作業場の整理整頓につとめる。
火気注意。
周辺の火、火気、火花、高温、熱源、静電気蓄積など全ての着火源となる因子を取り除き、その他の可燃物から遠ざける。

製品が粉塵の状態となるような使用は行なわない。
容器に転倒、落下、衝撃、引きずるなどの乱暴な取扱いをしてはならない。
取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

保管　　：ゴミ、水などが入らないように密閉して保管する。
火気等の対策は、指定可燃物と同様の保管。
吸水、吸湿を避ける。（容器が変形する可能性がある）
直射日光、熱い金属板、地面などの上を避け屋内冷暗所で保管する。
直射日光は製品の性能を著しく低下させる可能性があるため直射日光を避ける。
荷崩れ、破袋などの防止のため積みすぎは避ける。

安全な容器包装材料：できれば吸湿を防止し、静電気が発生しにくく破壊しにくい包装材料が望ましい。

８．曝露防止及び保護措置

設備対策　　：密閉式の溶融機器を用いることが望ましい。
必要に応じて局所排気装置、全体排気装置、屋内換気設備を設置する。
取扱い場所の近くに、緊急時の冷却、手、顔、体などの洗浄、うがいを行うための設備を設置する。

管理濃度　　：情報なし

許容濃度　　：情報なし（日本産業衛生学会、ＡＣＧＩＨ）

呼吸器用の保護具　：防毒マスク(有機ガス用)、送気マスク，防塵マスク（高濃度場合）など

手の保護具　　：保護手袋、綿性手袋、耐熱手袋

目の保護具　　：保護めがねなど

皮膚及び身体の保護具　：保護衣、保護長靴、保護前掛けなど

９．物理的及び化学的性質

物理的状態	：	通常一般的な室温において固体
形状	：	常温　固体、　溶融使用時（95℃以上）液体
色	：	白色
臭い	：	常温 なし、　溶融使用時　臭気あり
ｐＨ	：	該当しない
沸点	：	データなし
軟化点	：	85±8℃
分解温度	：	情報なし
引火点	：	情報なし
爆発性	：	情報なし
蒸気圧	：	情報なし
密度	：	0.98±0.05（g/cm³）
溶解性	：	水、アルコールに対して不溶 油系に対して溶解する。

10．安定性及び反応性

安定性　　：化学的には安定。
通常の取扱い条件では安定である。
しかし、熱、光により製品の性能が変化する可能性がある。

反応性　　：化学的には安定。自己反応性なし。

避けるべき条件：火源付近、直射日光、水、過度の高温。

避けるべき材料：情報なし

危険有害な分解生成物：熱分解時には二酸化炭素、一酸化炭素、その他の有害ガスなどを生成する。

11. 有害性情報
急性毒性　　：　情報なし
局所効果　　：　情報なし
感作性　　：　情報なし
慢性毒性・長期毒性　：　情報なし
発がん性　　：　情報なし
変異原性　　：　情報なし
催奇形性　　：　情報なし
生殖毒性　　：　情報なし
その他　　：　情報なし

12. 環境影響情報
移動性　　：　情報なし
残留性／分解性　：　情報なし
生体蓄積性　　：　情報なし
生態毒性　　：　情報なし
魚毒性　　：　情報なし
その他　　：　現在のところ環境影響情報はないが海洋生物、鳥類などが摂取することを防止する　ため、いかなる空域、陸域、海洋、水域などに投棄、放出してはならない。

13. 廃棄上の注意
残余廃棄物、汚染容器、包装の廃棄は都道府県知事などの許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して廃棄する。
廃棄物が高温である場合、完全に冷却してから廃棄する。
容器、機械などを洗浄した排水なども地面や排水溝、河川などへ廃棄してはならない。
「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の分類では廃プラスチック類に該当する。
地方条例等で特別の規制をうける場合にはそれに従うこと。
その他、廃棄物の処置および清掃に関する法律、その他法律の定めるところに従う。

14. 輸送上の注意
国際規制　　：　情報なし
国連分類　　：　分類基準に該当しない。
国連番号　　：　分類基準に該当しない。
国内規制　　：　適用される法令で定められた輸送方法に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件　：
火気注意。
輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどが無いことを確認する。
転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
直射日光を避け水漏れ、注水、高湿下厳禁、乾燥状態を保つ。
夏場の輸送時においては、熱い金属板、地面などの上に直接置かない事。

15. 適用法令
労働安全衛生法（第57条の2）：　固形パラフィン、酸化チタンを含有します。
化審法　　：　酸化チタン（既存）
化学物質管理促進法（PRTR法）：該当しない
消防法　　：　指定可燃物　合成樹脂類（その他のもの）（3,000kg以上）
毒物及び劇物取締法：該当しない
廃棄物処理法　：　産業廃棄物規制（廃プラスチック類）

16. その他の情報
注意：本製品は糊材と布材で構成されますが、本文の記載内容は糊材の特性のみについて述べています。また、ユーザーズマニュアル（取扱説明書）に指定された通常の条件下で、本製

品のふさわしい使用に対して、弊社の見解を表したものです。さらに、記載されているデータは、弊社の最善の知見に基づくものですが、情報の正確さおよび安全性を保証するものではありません。また、すべての化学品には、未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。特殊な取り扱いには、この点ご配慮をお願いいたします。